

# ●『にっぽん縦断 こころ旅』プロデューサーに聞く番組の真髄 自転車だから日本のニッポン再発見

NHK BSプレミアムで放送される『にっぽん縦断 こころ旅』。俳優・火野正平さんが、自転車で全国各地の「こころ」の風景を訪ねる。いわゆる旅番組だが、この番組はひと味もふた味も違う。この斬新さはどこから来るのか？ プロデューサーに聞いた。

NHK チーフ・プロデューサー

## 北村卓三

●きたむら・たくみ 兵庫県生まれ  
香川県育ち。1986年入局。

## 濱田順道

●はまだ・よりみち 千葉県出身。  
1985年入局。

### 速すぎもなく遅すぎもなく

——『にっぽん縦断 こころ旅』は、視聴者から思い出の「こころの風景」が寄せられ、その風景を俳優の火野正平さんが愛車「チャリオ」(自転車)で探し訪ねて行くドキュメンタリー旅番組ですが、番組制作のきっかけはなんだったんですか？

北村 ごく普通の人たちにとつての思い出の地や風景をテーマにした番組ができないかなと思っていたんです。テレビの旅番組の多くは、有名人がナビゲーター役となり土地を案内します。ドキュメンタリーの旅番組にしても、特別なテーマや人物を追うといった構成です。そういうものではなくて、ごくごく普通の人の旅——それが番組にならないかな、

と。テレビでは難しいか？ と思いつつ、視聴者から手紙の形で思い出の風景を寄せてもらい、それを受けて訪ねて行く素敵な旅人さえいればなんとかなるんじゃないかなあと、まあ確たる勝算もなく(笑)、アイデアだけがあったんです。

——火野さんの「華やかさ」(笑)を知る世代には、「彼が自転車で日本を走り回るの？」と思いました。

火野さんを起用されたのは？

北村 ある人の心に残る風景を訪ねて行くのですから、レポート的な案内ではなく、手紙をくれた人の思いを感じ受け取ってくれる人ということで、火野さんが思い浮かんだんです。以前、火野さんがタイの農村を訪ねる番組を見たことがありまして、言葉も通じないのにすっかり現地の人になじんでいて、そのときの飾らずに自然体な様子が印象に残っていました。

打診してみると、自転車少年だったことや、動植物に通じていること、それから番組には幸いしたのですが、いわゆる観光名所ではなく、誰も知らない自分だけの場所を見つけたりすることが好きということもわかりました。

昨年の番組スタート時は、朝放映する十分の「朝版」と夜放映する二

十九分の「よる版」を合わせて、ウィークデイに毎日四十分放送するスタイルでしたから、撮影が始まるとすこぶるハードになる。六十二歳だった火野さんご本人も体力的な不安はあったと思いますが、「毎日やるのか！ そんな番組見たことないな、おもしろそうだな」と、海のモノとも山のモノともつかない番組を引き受けてくださった。でも番組発表記者会見では、「たぶんオレ、三日か四日で逃げ出すんじゃないかな。にっぽん縦断たぶん無理！」と断言していましたね(笑)。

——移動手段で自転車を使うのは、当初からの計画だったんですか？

北村 そのへんもちよつといいかげんかな(笑)。列車旅、バス旅、徒歩の旅もテレビであります。加えて、おそらくアクセスが不便な土地にも行く。ということ、「消去法でい

くと自転車」になった、といった面がまったくないかと言うと、そうでもない(笑)。

濱田 自転車は乗っている人の自由度がなんといっても高い。列車もバスも、途中で気になるところがあっても「止めて降ろせ」と言えませんが、その点自転車は、気になるものがあれば、すぐに見に行けるし、止めたければすぐに止めることができます。好奇心のままにちよつと横道に入ってみることが容易にできる乗り物なんです。

北村 スピードもちょうどいいんです。番組が始まってから火野さんが作ってくれた『ちよつどいい』という歌があるのですが、まさにそのとおりで、車もバイクも速すぎて、道端に咲いている花に目がいかない。かといって歩きだと、今度はゆっくりすぎて風景の変化を感じられない。